

Focus Vol.68

長洲町でキラリ輝く人たち

福川 萌華さん
(17歳 葛輪)

🏆 第46回全日本ユースサンボ選手権大会 女子60kg級優勝

柔道家としても数々の大会で好成績

4歳年上のお兄さんの影響で年長から長洲柔道塾で柔道を始めた福川萌華さん。熊本中央高等学校女子柔道部に所属している福川さんは、昨年行われた令和元年度熊本県高等学校総合体育大会の柔道女子52キログラム級で県ナンバー1に輝き、全国大会出場も果たすなど柔道家として輝かしい実績を残している。

サンボとの出会い

福川さんと「サンボ」を引き合わせたのは、中学3年生のときに同部の練習に参加したことがきっかけ。全国で唯一、柔道部の練習の中にサンボを取り入れている同部の魅力に惹かれ、「柔道だけでなくサンボにも挑戦してみたい」という気持ちが芽生えたという。

サンボとは、ソビエト連邦で生まれたもので、柔道とレスリングを合わせたようなスポーツである。上衣はサンボジャケットと呼ばれるジャケットを着用し、下衣は短パンで、シューズを履くというスタイルで行う。ルールは、投げ技か首や手首、足首以外への関節技による一本勝ちまたは、相手を倒したり抑え込むなどしてポイントを重ねるというものである。技の決まり方も柔道やレスリングとは違い、相手を投げたときに、自分の態勢が崩れていると一本にはならないという独特

なルールがある。

同部で柔道とサンボを指導するのは板楠忠士監督。自身も大学時代にサンボと出会い、現在は全国各地でサンボの指導・普及活動を行っている。

また、以前から交流があったモンゴル政府から、スポーツ発展のために大きく貢献したとしてモンゴル国スポーツ政府賞やモンゴル国スポーツマスターなどが贈られるなど素晴らしい功績を残している板楠監督から福川さんは指導を受けている。

習得した技や心を胸に

2月9日に東京都の墨田区総合体育館で行われた「第46回全日本ユースサンボ選手権大会」に出場した福川さん。出場した60キログラム級には、全国から15人が参加し、トーナメント戦で争われた。厳しい戦いもあったが、これまでに学んだ技術を発揮し見事全国優勝を果たした。

部員たちの活躍に板楠監督は、「柔道やサンボを通して学んだ感謝の気持ちやマナー・道徳心を次の世代に伝えていってほしいですね」と部員たちへ熱い想いを込めた。

現在、肩を故障して満足な練習ができていない福川さんは、「まずは肩を治して、大きな大会でも優勝できるように頑張りたい。大学に進学しても活躍できるような選手になりたいです」と力強く今後の抱負を語った。